3-2. 安永地区

１．地区の概要

（１）位置・人口等

■位置

安永地区は、町中央の西部に位置し、秋津川を境にその北側、地区の東西に横断する主要地方道熊本高森線沿道を中心に市街地が形成され、市街化区域に指定されています。

主要地方道熊本高森線から南側に安永１町内と２町内、北側に３町内と４町内の４つの町内で構成されています。

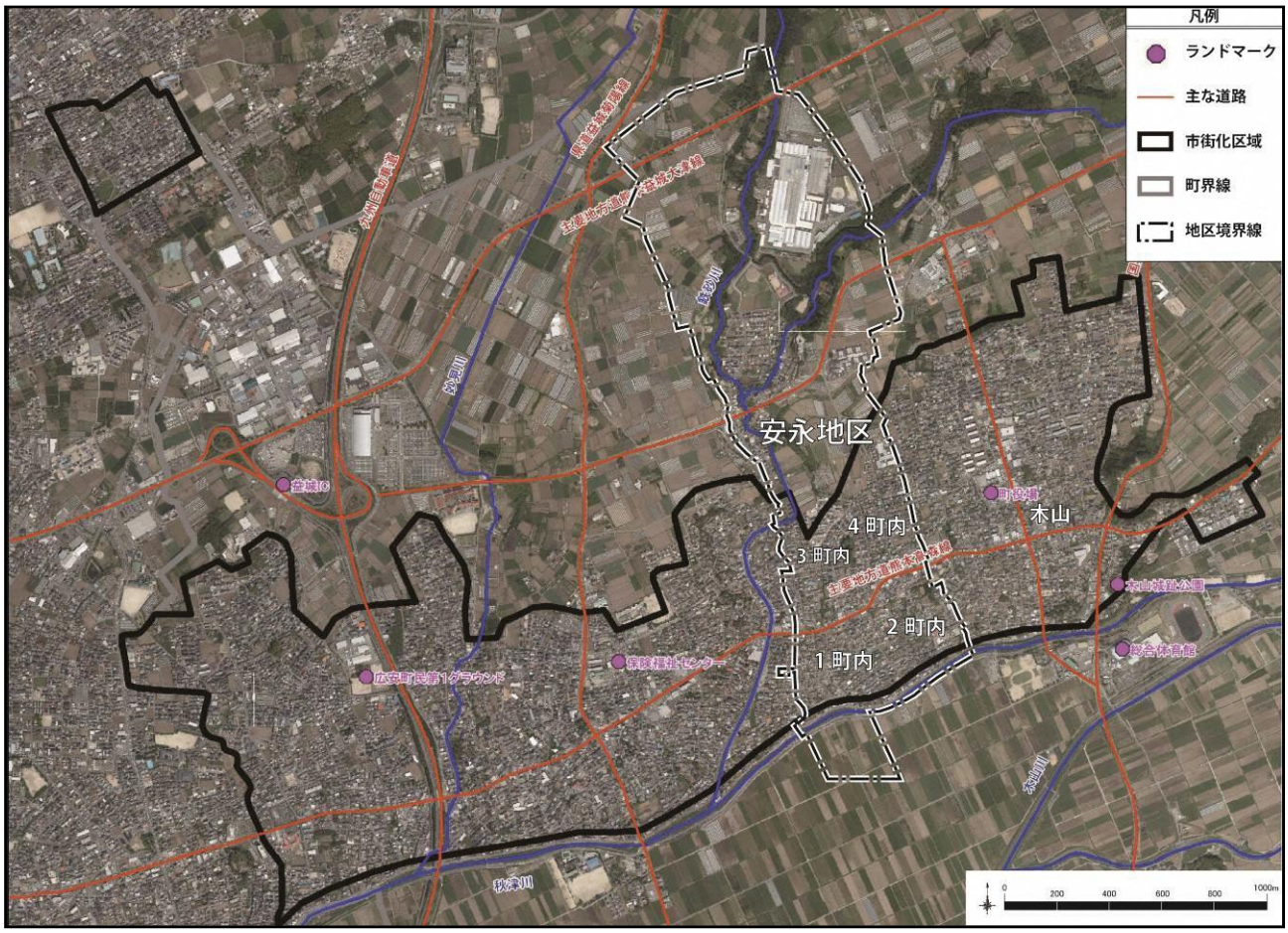

図　安永地区

■人口等

平成 29 年３月末の住民基本台帳によると、安永地区の人口は 3,523 人で、世帯数は 1,319 世帯となっています。

震災直前、平成 28 年３月末と比較すると、人口は 276 人、約１割減少しており、安永２町内での減少が著しく、88 人、13.5%の減少となっています。

表　安永地区の人口

	人口 （平成 29 年 3 月末）	世帯数 （平成 29 年 3 月末）	人口増減 （平成 29 年／28 年）
安永 1 町内	582 人	234 世帯	△69 人（89.4%）
安永 2 町内	565 人	245 世帯	△88 人（86.5%）
安永 3 町内	1,861 人	625 世帯	△59 人（96.9%）
安永 4 町内	515 人	215 世帯	△60 人（89.6%）
計	3,523 人	1,319 世帯	△276 人（92.3%）

（２）被害状況

罹災証明による家屋の被災状況によると、全壊が 432 棟（39%）、大規模半壊が 90 棟（8%）となっており、大きな被害を受けました。

表　被災家屋数（罹災証明より）

	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	被害なし
安永 1 町内	105 棟（45%）	10 棟（4%）	44 棟（19%）	69 棟（30%）	4 棟（2%）
安永 2 町内	69 棟（34%）	12 棟（6%）	48 棟（24%）	69 棟（34%）	5 棟（2%）
安永 3 町内	129 棟（41%）	28 棟（9%）	71 棟（23%）	80 棟（26%）	3 棟（1%）
安永 4 町内	129 棟（36%）	40 棟（11%）	81 棟（22%）	109 棟（30%）	2 棟（1%）
計	432 棟（39%）	90 棟（8%）	244 棟（22%）	327 棟（30%）	14 棟（1%）

（３）地区の課題

・安永地区は、旧集落を中心に小規模な住宅地開発により形成されたこともあり、地区内の多くの道路は幅員６ｍ以下で、車両の離合も困難な道路が多くなっています。

・また、災害時に避難地となる公園が少ない状況となっています。

２．地区の基本方針

安永地区の熊本地震からの復旧復興に向けて、安永地区の住民が一体となり、町と協働して『災害に強く、明るく住みやすい　安永』を目指してまちづくりを進めます。

まちづくりの目標

『災害に強く、明るく住みやすい　安永』

３．避難路・避難地の計画

＜避難路＞

避難路については、主要な避難路である主要地方道熊本高森線への接続を考慮し、地区内の南北を通る町道五楽安永線（南側）と町道大久保古川線（北側・南側）を、避難しやすく、かつ緊急車両の通行などもしやすくなるように、拡幅整備します。

＜避難地＞

避難地については、安永１・２町内公民館に近い場所に、災害時の一時避難場所を整備します。

表　避難路・避難地の整備の概要

路線名等	整備内容		整備の内訳			概算事業費
			延長	幅員	面積	
		拡幅等	（m）	（m）	（㎡）	（千円）
町道五楽安永線（南側）	地区公共施設（避難路）	拡幅	280.0	6.0		110,576
町道大久保古川線（北側）	地区公共施設（避難路）	拡幅	130.0	5.0		44,517
町道大久保古川線（南側）	地区公共施設（避難路）	拡幅	260.0	5.0		89,035
一時避難場所	地区公共施設（避難地）	新設			420.0	66,000

安永地区 【A:6m（町道五楽安永線）、B:4～6ｍ（町道大久保古川線北側）、C: 4～6ｍ（町道大久保古川線南側）】

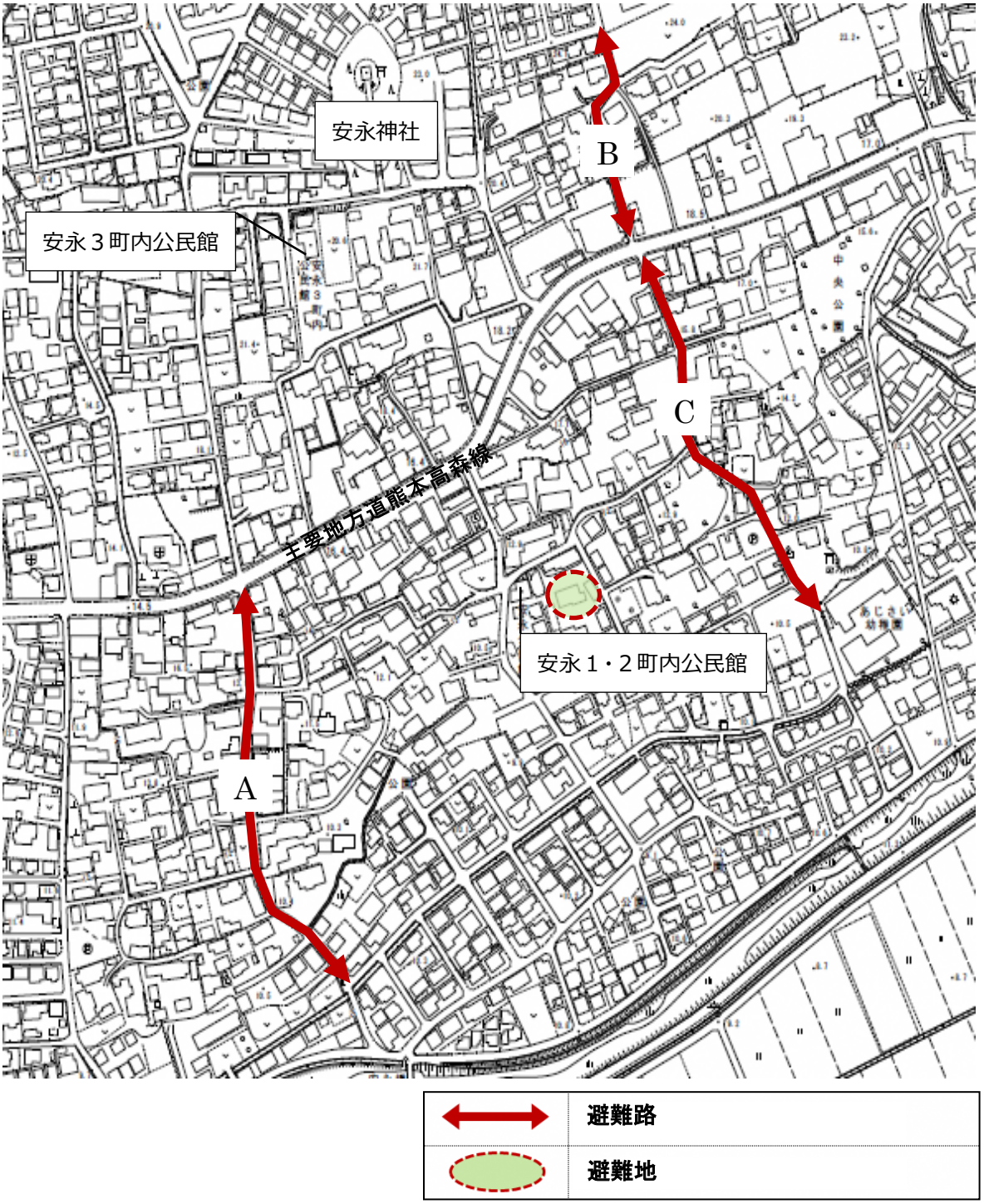

図　避難路・避難地計画図